

『研究者の社会リテラシーと 非専門家の科学リテラシーの向上』

北海道大学大学院農学研究院

松井 博和

遺伝子組換え作物対話フォーラムプロジェクト
<http://www.agr.hokudai.ac.jp/gmtaiwa/>

1. 研究の概略(1)

■遺伝子組換え作物対話フォーラム プロジェクト

本研究課題を実施する際のプロジェクトの名称

■研究の契機

1. 北海道GM作物論争への科学技術社会論系研究者達の関心
2. 北海道GM作物の栽培等による交雑等防止条例(論争の1つの帰結)

■研究目標

遺伝子組換え作物対話フォーラムプロジェクトは、科学技術に関わる様々な利害関係者間に横たわる相互理解の不足を、対話や熟慮によって埋めるための対話モデルを開発する

<具体的研究開発目標>

1. 研究者の社会リテラシーと市民の科学リテラシー双方の向上を図る
2. 科学者や技術者と市民との対話(討議)を促すモデルの開発

■行動・・・二つの側面を併せ持った企画・運営

- ①目標を達成するための社会実験
- ②論争に関する何らかの合意を探る

2. 研究の概略(2)

■目標達成のための仮説モデル

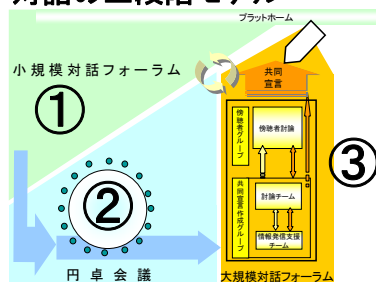
＝対話の三段階モデル

質・規模の異なる
対話の組合せ

働きかけの対象

- ・科学者
- ・農業者
- ・懸念する消費者
- ・加工業者
- ・道庁農政部
- ・他

研究者－市民間の対話の深化：課題に関する意見の醸成



3. 研究の概略(3)・・・実践活動・・・

■三段階モデル(主)

①小規模対話フォーラム：千歳・札幌・苫小牧・興部・富良野

- プロジェクトの基盤。双方向・反復型を目指す
- 2006年5月～2008年5月
- 情報の共有と課題析出の場

②円卓会議(ブレ円卓会議を含む)

- 大規模対話フォーラムでの検討課題の決定。利害調整。
- 2008年4月26日(2007年3月17日)
- 共通認識事項拡大と討論課題の決定

③大規模対話フォーラム

- 三段階モデルのゴール。共同宣言文の発行と行政への提出
- 2008年8月9日
- 課題の討議と結果の共同宣言

■派生的実践活動

北海道GMコンセンサス会議での専門家同士の座談会(2006年11月)に端を発する「専門家意見交換会」の実現

- 2007年2月4日と2007年9月30日
- 異なる分野の専門家らによる対話可能性の追求

4. 分析の視点と手段

■視点

- ①リテラシーとは何か
- ②リテラシーの向上をどうキャッチするか
- ③各種対話の場は目的通りに機能しただろうか?
- ④対話は深化したか:

専門家－市民
専門家－専門家

■手段

- ①参与観察……………小規模対話フォーラムは観察の場でもある
- ②アンケート分析……………対象者は三段階それぞれの関与者
＋ コンセンサス会議専門家アンケート調査結果
- ③観察とアンケート分析をつなぐ考察

5. 得られた成果(1)

現場から

①社会リテラシーと科学リテラシー

- 研究者の社会リテラシーとは
- 市民の科学リテラシーとは

②二つのリテラシーの向上

- 向上の瞬間(現場)
- アンケート分析

③トランスサイエンス領域の問題群における対話を深めるためのツールとしての「三段階モデル」の実効性

- 各段階での対話の目的は達成された
- 小規模対話フォーラム：円卓会議：大規模対話フォーラム
- 対話の深化

向上の瞬間

(Ⅰ)・・・討論が上手くなる

経験則：

- 市民と研究者の距離が近い場合
- より深い議論が可能となる

(Ⅱ)・・・態度に変化が生じる

経験則：

- 研究者の態度の変化は市民側の態度を変化させる
- 遠かった研究者と市民の距離が縮まる

アンケート結果から							
プロジェクトの目的が果たされたか否か (単位:%)							
	十分果たされた	研究者の社会に対する理解はある程度向上	一般の人の科学に対する理解はある程度向上	どちらとも言えない	果たさなかった	不明・未記入	
全 体(N=77)	7.8	29.9	49.4	26.0	5.2	1.3	
主 婦(N=29)	3.4	34.5	44.8	44.8	0.0	0.0	
研究者(N=5)	0.0	20.0	80.0	20.0	0.0	0.0	
プロジェクトの催しに参加して自分の考えが変わったと思うか (単位:%)							
	思う			どちらとも言えない		思わない	不明・未記入
	1	2	3	4	5	6	7
全 体(N=77)	18.2	26.0	23.4	22.1	1.3	1.3	5.2
主 婦(N=29)	13.8	10.3	34.5	27.6	0.0	3.4	10.3
研究者(N=5)	0.0	60.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0

資料) GMO対話フォーラム・プロジェクト アンケート

6. 得られた成果(2)

④社会問題解決の一助となる行動

- 北海道GMコンセンサス会議との協働
- 大規模対話フォーラムでの共同宣言と行政への手渡し

⑤専門家会議の可能性・・・将来的展望

- コンセンサス会議専門家による座談会の開催
- GM作物対話フォーラムPJ側招聘研究者を交えた、専門家同士の意見交換の場

⑥GMO問題のアクターによるネットワーク

- プラットフォーム

7. 今後の展開可能性／社会的波及効果

<展開可能性>

- 市民度アップ(情報たどり着き能力、対話討論能力)を図る学習プログラムとして、三段階モデルを組み込んだシステムを考案し、2012年第2回北海道GM条例見直しを市民側からの意見醸成によって盛り上げる
- 北海道食の安全安心委員会制度に安住しないためにオンブズマン機能を盛り込んだ「プラットフォーム」の構築可能性
- 研究者が参加しやすい対話の場を構築する

<社会的波及効果>

- ある小規模対話フォーラムグループとの学習会を2009年度に再開する
- 2009年度育種学会市民公開シンポジウムの内容と実践に関する協力
- 生涯学習問題とのリンク

<課題>

- 参加者の幅を広げる
- 効果的な運営組織作り

ご清聴ありがとうございます

<http://www.agr.hokudai.ac.jp/gmtaiwa>